

『社会言語科学』特集論文の募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、「特集・言語の対人関係機能と敬語」の論文を募集しています。特集に掲載された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。原稿の種類、原稿の書き方、投稿のしかた、投稿先などは、通常の論文の場合と同じです。投稿に際し、「特集」のための論文であることを明記してください。

論文投稿の締切 : 2001年11月30日
掲載号の発行 : 2002年7月(第5巻第1号に掲載予定)
お問い合わせ先 : 岡 隆 E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp
Fax: 03-3815-6673
〒113-0033 文京区本郷7-3-1
東京大学文学部社会心理学研究室

特集・言語の対人関係機能と敬語

敬語問題は、日本の言語研究において古くて新しいテーマである。敬語現象は、閉じられた形式体系として見る場合、日本語や韓国語やジャワ語などの一部の言語にのみ存在する特殊な現象として捉えられる。20世紀の敬語研究の歴史をふり返ると、このような見方が主流をなしていたと言える。しかし、敬語現象を、対人関係を調節するという言語の基本的な機能の現れとして見る場合、われわれは形態上の特徴や形式体系へのこだわりから解き放たれ、一つの開かれた機能システムとして敬語現象を見直し、世界のどの言語にも存在する普遍的な現象として捉えなおすことになる。20世紀後半から、機能主義という旗印を掲げるか否かにかかわらず、このような形式より機能を重視する研究が急激に増えてきた。

そして、敬語問題へのアプローチの仕方についても、近年語彙論、形態論、文法論の枠を越え、意味論、語用論、社会言語学などの視点による考察が増えてきている。今後は、さらに言語学以外のさまざまな視点の導入が必要で、社会学、心理学、病理学、文化人類学、哲学などによるアプローチが期待される。われわれは学際的な交流を通じてさまざまな分野から多くの養分、知見を吸収し、狭義的敬語現象を含めた言語の対人関係機能の研究を一層深化させ、発展させていかなければならない。

本特集は以上のような主旨のもとで、下記のようなテーマに関する研究論文、展望論文、ショートノートの投稿を募集する。

- ・言語の対人関係機能に関する理論的考察
- ・対人関係障害と言語問題の臨床分析
- ・現代社会での敬語・ポライトネスの実態調査
- ・言語教育での敬語・対人関係機能の習得問題
- ・新しい視点による敬語の史的・研究
- ・異文化接触と敬語行動の対照研究
- ・世界諸言語に見られる敬語現象の報告
- ・敬語と倫理問題の思想的・哲学的思索